

8 学級・ホームルーム経営

(4) 学級・ホームルーム経営の在り方と実際～特別支援学校～

学級・ホームルーム 経営の在り方

学級は、児童生徒にとって学習や学校生活の基盤であり、学級担任の教師の営みは重要である。学級担任の教師は、学校・学部・学年経営を踏まえて、調和のとれた学級経営の目標を設定し、指導の方向及び内容を学級経営案として整えるなど、学級経営の全体的な構想を立てるようには必要がある。

学級経営を行う上で最も重要なことは学級の児童生徒一人一人の実態を把握すること、すなわち確かな児童生徒理解である。学級担任の教師の、日頃のきめ細かい観察を基本に、面接等適切な方法を用いて、一人一人の児童生徒を客観的かつ総合的に認識することが児童生徒理解の第一歩である。日頃から、児童生徒の気持ちを理解しようとする学級担任の教師の姿勢は、児童生徒との信頼関係を築く上で極めて重要であり、愛情をもって接していくことが大切である。

また、学級を一人一人の児童生徒にとって存在感を実感できる場としてつくりあげることが大切である。すなわち、児童生徒の規範意識を育成するため、必要な場面では、学級担任の教師が毅然とした対応を行いつつ、児童生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた分かりやすい説明に努めながら、相手の身になって考え、相手のよさに気付いたり、よさを見付けようと努めたりする学級、互いに協力し合い、自分の力を学級全体のために役立てようとする学級、言い換えれば、児童生徒相互の好ましい人間関係を育てていく上で、学級の風土を支持的な風土につくり変えていくことが大切である。さらに、集団の一員として、一人一人の児童生徒が安心して自分の力を発揮できるよう、日頃から、児童生徒に自己存在感や自己決定の場を与え、その時その場で何が正しいかを判断し、自ら責任をもって行動できる能力を培うことが大切である。

なお、教員の意識しない言動や価値観が、児童生徒に感化を及ぼすこともあり、この見えない部分での教員と児童生徒との人間関係にも十分配慮する必要がある。

学級・ホームルーム 経営の実際

特別支援学校では「日常生活の指導(各教科等を合わせた指導)」の形態で指導することが多い。各教科や自立活動の内容も計画的に取り扱いつつ、下記のような学級・ホームルーム経営を行う。

＜朝の会・終わりの会・短学活（ショートホームルーム）＞

児童生徒の健康状態等の把握と学校生活を円滑に送るための連絡及び調整の時間である。

○開始時、終了時のあいさつを行う。

○欠席、遅刻、早退の点検と理由の確認等の指導を行う。

○児童生徒の健康状態等の把握と指導を行う。

○予定等の連絡と、学校、各教科、各分掌からの連絡事項の伝達を行う。

＜休み時間＞

授業中には見られない児童生徒の姿があり、児童生徒一人一人を理解するとともに、児童生徒一人一人の状況を捉えたい。安全確保と事故防止についても、日頃から留意し指導する必要がある。

＜給食の時間＞

給食の時間に行われる指導は「給食指導」と「食に関する指導」に分けることができる（本編 P105 IV—8—(1)「学級経営の実際（例）」参照）。

＜清掃の時間＞

清掃の時間は、児童生徒が協力しながら、力を合わせて働いたり、学級や学校の生活の向上に貢献したりする喜びを実感する時間である。

○役割分担等を適切に行い、協力して清掃ができるように事前に十分な指導を行う。